

2014年10月3日

内閣総理大臣
安倍 晋三様

国際婦人年連絡会（全国組織 35 女性団体で構成）

世話人 山口みつ子

実生 律子

紙谷 雅子

アメリカのシリア空爆の即時中止を求めます

オバマ大統領は「『イスラム国』は国際社会全体の脅威である」として、イラクからシリアへと空爆を拡大し、米国の自衛権を根拠に各国への支持を訴えました。ニューヨーク滞在中の安倍首相は直ちに賛成の意を表しましたが、この空爆は、本来軍事行動に必要な国連安全保障理事会の決議は得られていません。

これまでの湾岸戦争（1991年）、アフガニスタン戦争（2001年）、イラク戦争（2003年）をみても、他国への武力介入は長期化し、泥沼と化すばかりでした。武力では根本的な解決は望めないことを如実に語っています。どこの国であれ、他国への武力介入はあってはならないことであり、「紛争から戦争にしないこと」が世界の流れです。

私ども国際婦人年連絡会は、「平和憲法堅持」の立場から、他国への武力介入に対し、その都度、即時中止を求めてきました。

何より大切なのは一人ひとりの生命です。オバマ政権は、武力による解決ではなく、シリア各会派間の対話を促し、3年にわたる内戦で崩壊した国内の再建のために、国際社会が一致して協力できるよう、外交の指導力を発揮すべきです。

以上のことから、日本政府は、同盟国アメリカに対し、シリアへの武力攻撃を速やかに止めるよう誠意をもって箴言することを求めます。

